

Ⅲ. 武生市文化センター／武生国際音楽祭

武生市文化センターを中心に開催される「武生国際音楽祭」は、民間ボランティアによる実行委員会によって運営されている。各実行委員の役割など文化施設主導型のボランティア活動とは運営のしくみが異なるだけでなく、フェスティバルという年間のある一定期間に集中した事業に対するボランティアである点にも注目したい。

📄 施設・運営の概要

運営母体	(財)武生市文化振興財団・施設管理事業団
所在地	福井県武生市高瀬 2-3-3
TEL	0778-23-5057
FAX	0778-21-1975
開館年月	1980年9月
複合形態	複合館
施設特性	多目的ホール
座席数	大ホール 1196席、中ホール 726席 小ホール 220席
自主事業予算	年間1,000万円（国際音楽祭は除く）
自主事業数	年間約10本（ 〃 ）
立地都市人口	70,161人
組織体制	9名（総務3、企画2、技術3、その他1）



😊 ボランティア制度の概要

名 称	・武生国際音楽祭推進会議（毎年9月に組織）
導入時期	・1990年
登録人数	・60名
導入の経緯	・第1回武生国際音楽祭開催のための実行委員会（武生市主導）が組織され、その委員会に市民がボランティアとして参画していた。その後次年度以降の音楽祭継続に向けて、ボランティアのみの実行委員会を組織。実質的な音楽祭の実施・推進・主催団体となる。
活動内容	・企画・制作、広報・宣伝、受付・案内、教育普及活動
募集方法	・公募（音楽祭開催中のチラシ、市の広報等）、口コミ
研修	・特になし
実費支給	・なし
その他	・武生市文化センター内に推進会議の事務局を設置。ボランティアコーディネーターが総括。 ・①音楽祭開催前、②音楽祭中、③音楽祭後の3段階に分けて体制・業務内容を整理。 ・国際音楽祭の予算は4,500万～5,000万円。財政的な責任まで全て推進会議で負う。 ・会員制の任意団体から、財団化・社団化などの法人化の可能性を模索している。

1. 武生国際音楽祭の開催までの経緯等

(1) 第1回音楽祭開催のきっかけ

- この音楽祭は1990年に「フィンランド音楽祭'90 in 武生」として開催されたのが最初。フィンランド在住のピアニスト舘野泉氏が東京で1989年に開始したもので、90年に地方展開の一環として武生で開催されることになった。
- 文化センターでコンサートなどを開催していた「音楽研究会」というピアノの先生の市民グループがあって、最初はそこに話があった。そのグループが市長と文化センターに話を持ち込んだのがきっかけ。
- 文化センターはちょうど10周年を迎えており、クラシックに力を入れていたが、聴衆の広がりという点で課題があった。音楽フェスティバルを開催すれば、市民と親密な関係の事業ができ、武生にもいい刺激になってプラスになるだろうということで、実施することとした。
- 市長も新任で、新しいことをやりたいと考えており、市の補助金300万円も付いて、フィンランドのアーティストを招聘した。市をあげての事業として、市の関係機関の商工会議所や青年団、婦人会にも声をかけ、音楽研究会のメンバーとともに30名の実行委員会を組織した。
- 実行委員長は、音楽研究会の代表でシンセサイザー音楽の作曲なども手がける高木芳盛氏が就任。ただ、実行委員会が組織されたのは前年の12月で、開催まで半年しか残されていなかった。
- 来日アーティストについてはフィンランドの方で決まっていたが、その他の準備事項はよくわからなかったというのが実状。実行委員会は、それぞれの組織の代表者とボランティアベースで参加している個人とがいて、会合ではなかなか内容が固まらないまま音楽祭に突入していった。結局、音楽祭はばたばたと始まることになったが、終わってみるとそれなりにうまくいった。
- 運営費としては、市の予算300万円と市内企業からの寄付金500万円（1社50～100万円）の800万円があてられた。
- 森と湖の国というフィンランドのイメージが良かったこと、前夜祭（2,000人が参加）などで事前に浸透を図ったこともプラスに働き、予想以上の成果があった。マスコミも応援してくれ、入場料収入もかなりの額になった。

(2) 第2回音楽祭

- 現在のボランティア組織が生まれたのは2回目のフェスティバルになってから。議会や市内企業には1回限りということで協力を要請したため、2回目以降の開催についてはあまり協力的ではなかった。
- まず、第1回の音楽祭に個人の立場で参加していた実行委員12～3名が集まり、何度となく検討した。その中で、音楽研究会メンバーの友人として参

加した人たちから、既存の市の祭やイベントは必ずしもうまくいっておらず、音楽フェスティバルのようなものが武生にあることはいいことだという意見が出た。


- また、その時に集まったメンバーは、街としての活力不足などにも強い危機感を持っており、万が一うまくいかなくても一人50万円ぐらい覚悟すれば10人で500万ぐらいなら何とかなるだろう、ということで、10月から翌年の準備を開始した。
- その時に集まったメンバーと、文化センターのメンバーが声をかけて50人の実行委員会を組織。第1回目の実行委員会と異なり、既存組織の代表者のような人はいなかった。男性は30～40歳代が中心で、武生の街づくりに危機感を持っている層が、女性は20～30歳代が中心でピアノの先生などが集まった。
- フェスティバルの事務局は第1回目と同様、文化センターが務めたが、同時に文化センターの職員は全員が個人として実行委員会のメンバーに参加。
- 第2回目のフェスティバルは、館野泉氏を芸術監督に「フィンランド音楽祭 '91 in 武生」として開催された。

(3) 第3回目以降

- 3回目から名称を「武生国際音楽祭 '92」とし、主催が実行委員会から現在の「武生国際音楽祭推進会議」に変わった。
- 実行委員会では音楽祭が終わると組織が解散し、半年間活動が途切れていたが、音楽祭を準備するには1年ぐらいかかり、組織としてきちりとしたものにする必要があったため。
- また、音楽祭を支える傘のような組織として理事会を作り、市民の有力者に理事になってもらった。理事長は病院院長で音楽祭にも来ていた笠原氏に依頼、その他会社社長や実行委員会の元委員など、20名以内のメンバーで理事会を構成。
- 音楽祭の内容に関しては、館野氏の要請によって東京で開催されるフィンランド音楽祭を支える形で、フィンランドだけをテーマにしたものではやっていけないという意見が出された。
- そこで、第2回目の音楽祭に出演し、海外にもネットワークのあったピアニストの高橋アキさんに協力をお願いし、オランダとデンマークの演奏家を招聘することとした。
- オランダ、デンマークに焦点を当てたのは、あまり大国にしたくなかったため。高橋アキさんのネットワークということで、自然と現代音楽のウエイトが大きくなった。
- 3年目、4年目は音楽監督は置かず、高橋アキさんにアドバイザーをお願いし、フィンランド関係半分、現代音楽半分という音楽祭となった。現代音楽を取り上げたことで情報発信という点ではたいへん成功したが、逆に観客は減少した。
- そうしたこともあって、音楽祭は1994年の5回目に大きな方向転換を行っ

● 武生国際音楽祭'96 スケジュール

TAKEFU INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL '96 SCHEDULE

	武生市文化センター大ホールコンサート Takefu Bunka Center Main Hall Concerts	周辺市町村コンサート Run-out Concerts	ティータイムコンサート Tea-Time Concerts	スクールコンサート School Concerts	寺社コンサート Temple & Shrine Concerts	講習会、レクチャー等 Master Classes, Lectures and etc.
6/1 [Sat]	6:00 p.m. オープニング ガラ&ウインド オーケストラコンサート Opening Gala Concert & Band Concert					
6/2 [Sun]	7:00 p.m. リー・ジャン ピアノ リサイタル Li Jian Piano Recital 10:30 a.m. 子供のためのコンサート I ホワイエ Concert for Children I Lobby		2:00 p.m. レストラン 夢屋 チェロと アコーディオン		7:00 p.m. 大塩八幡宮 二胡	1:00 p.m. 武生市文化センター小ホール ピアノマスタークラス
6/3 [Mon]	7:00 p.m. 許可(シュユ・クウ) 二胡 リサイタル Xu Ku Erhu Recital 1:00 p.m. プラハ放送交響楽団 オープン リハーサル Open Rehearsal of Prague Radio Symphony Orchestra	2:00 p.m. 能楽の里文化交流会館 (池田町) チェロ、アコーディオン、 サクソフォーン&ピアノ		2:00 p.m. 武生第一中学校 ボリシヨイ劇場 六重奏団		
6/4 [Tue]	7:00 p.m. プラハ放送交響楽団スペシャルコンサート Prague Radio Symphony Orchestra Special Concert	2:00 p.m. 河野中学校 ボリシヨイ劇場 六重奏団		2:00 p.m. 武生第六中学校 チェロ、アコーディオン & ピアノ	10:00 a.m. 引接寺 チェロと アコーディオン	
6/5 [Wed]	7:00 p.m. アコーディオンとチェロによるコンサート Accordion and Cello Concert	7:00 p.m. いまだて芸術館 ボリシヨイ劇場 六重奏団		11:30 a.m. 武生万葉中学校 カナダ室内アンサンブル (休養、打楽器) 2:00 p.m. 武生西小学校 カナダ室内アンサンブル(鐘)		
6/6 [Thu]	7:00 p.m. タケフインターナショナルトリオ コン서트 Takefu International Trio Concert	7:00 p.m. 南条文化会館 カナダ室内 アンサンブル	2:00 p.m. ボナ・パティート アコーディオン	2:00 p.m. 武生第五中学校 ボリシヨイ劇場 六重奏団		
6/7 [Fri]	7:00 p.m. カナダ室内アンサンブル コン서트 Canadian Chamber Ensemble Concert	7:00 p.m. 織田町中央公民館 ボリシヨイ劇場 六重奏団		1:30 p.m. 武生第三中学校 チェロ、アコーディオン & ピアノ		1:30 p.m. 武生市文化センター小ホール 声乐講習会
6/8 [Sat]	7:00 p.m. ボリシヨイ劇場六重奏団コンサート Bolshoi Theatre Sextet Concert 11:00 a.m. 子供のためのコンサート II ホワイエ Concert for Children II Lobby		3:00 p.m. レストラン ピエトロ ヴァイオリン、チェロ & アコーディオン			1:00 p.m. 武生市文化センター 楽屋裏練習室 フルート、オーボエ講習会 2:00 p.m. 武生市文化センター 小ホール 音楽祭アカデミー
6/9 [Sun]	3:00 p.m. ファイナル スペシャルコンサート Final Special Concert				10:00 a.m. 毫福寺 ヴァイオリン、チェロ & アコーディオン	1:00 p.m. 武生市文化センター小ホール 音楽祭フォーラム & トーク

た。具体的には、以前武生でのコンサートに出演したこともある福井県出身の指揮者、小松長生氏に音楽監督をお願いし、現代音楽の継続性を維持しながら市民に受け入れられやすい企画も取り入れるようになった。

2. ボランティアによる音楽祭の運営方法

(1) 武生国際音楽祭推進会議について

① 推進会議の位置づけ

- 音楽祭はこの推進会議が主体的に行っており、企画内容から財政的な面まで責任を持っている。従って、音楽祭は厳密に言うと武生市文化センターの自主事業ではない。
- (財)武生市文化振興・施設管理事業団は、武生市文化センターの運営を市から委託されているが、時として推進会議と市の板挟みになることもある。
- センターは音楽祭とは別に、市から1,000万円の補助金を得て年間約10本の自主事業を実施している。

② 会員の構成

- 会員数としては当初100名をめざしたが、現在のメンバーは約50人。会員は、女性が若干多い。男性は30～40歳代が、女性は20～30歳代が中心。
- 年によって若干の入れ替わりがある。最初の音楽祭の時に高校生で演奏会を聞き、その音楽祭のボランティアをやってみたいということで、最近加入したメンバーもいる。
- 武生東高校には国際科という学科があつて、そこの留学経験のある女子学生も語学能力を活かしたボランティアとして参加している。
- 会員50名のうち、常時音楽祭の活動に積極的に参加しているのは約30名。残りの20名は、期間中に応援をお願いすると手伝ってくれるメンバー。
- ただ、7年間やってきて最初からやっているメンバーの中には疲れてきている人がいるのも事実。また中には、例えば外国人との交流やプログラムデザインなど、やりたいことはやっても、チケットを売るのは苦手でやらないといったメンバーもいるようだ。
- 現在の事務局長は歯科医の山本有一郎氏。2年目から参加した方で、青年会議所の副理事長を務めたこともあり、組織の中でリーダーシップを発揮してくれている。
- 山本氏の参加の動機は、1回目の音楽祭の時に、館野泉氏に音楽祭の方向性を質問したところ、館野氏の「“黄金の中道”を行く」という答えに賛同して参加するようになったとのこと。

(2) ボランティアの業務内容

- ボランティアの業務内容は次のとおり。ボランティアの運営システムということでいろいろとシステムチックに考えたこともあるが(役割分担、業務の流れ etc.)、必ずしもそのとおりのうまくいくとは限らない。

■ 武生市文化センター／武生国際音楽祭

① 音楽祭準備期間

- ・宣伝班
- ・ウエルカムスタッフ班：交流会、おみやげ物の手配
- ・デザイン班：文化センター内、屋外の演出デザイン検討
- ・Festival Shop 班：グッズ探し、購入
- ・マップ班：イラスト入り武生市内マップの制作（日本語＋英語）
- ・テレ・マーケティング班：電話によるチケット・セールス
- ・情報収集・発信班：国内外のフェスティバルの情報収集
- ・プログラム製作班：プログラムデザイン、原稿依頼、プロフィール作成、曲目解説、広告依頼など
- ・ポスター・チケット・チラシ・のぼり班：デザイン・制作等
- ・アンケート製作班：アンケート用紙の作成
- ・ホームステイ班：演奏家の希望確認、ホストファミリー探し

② 音楽祭期間中

- ・接客スタッフ：来賓、マスコミ、大使館関係者対応など
- ・通訳スタッフ
- ・ウエルカム・スタッフ：交流会、さよならパーティの運営、進行
- ・託児所スタッフ：保育資格保持者を常時配置
- ・記録スタッフ：写真・ビデオ撮影、録音、プレス記事切り抜き
- ・ホームステイ・スタッフ
- ・バックステージ・スタッフ：楽屋係、影アナ
- ・アッシャー・スタッフ：ホール内の観客誘導
- ・アウトサイド・スタッフ：駐車場係
- ・ロード・スタッフ：演奏家の送迎

③ 音楽祭後

- ・アンケート回収・分析班
- ・記録収集班：写真アルバム整理、ビデオ編集
- ・報告書作成班
- ・収支決算書作成班：文化センター職員が担当
- ・反省会：ボランティア全員

(2) 運営方法

① 運営体制

- ・財政的な面については、最終的に推進会議の理事会が、事務処理は文化センターの事務局が責任を持つことになっている。
- ・文化センターの館長は、推進会議の理事を兼ねており、対外的にはアーティストック・アドミニストレーター（Artistic Administrator）として芸術監督とともに企画とりまとめの中心的役割を果たしている。ただし、あくまでも推進会議の合意が前提。
- ・文化センターの職員はすべて財団のプロパー職員で、全員が推進会議の会員になっている。事業団の部課長クラスは市からの派遣職員。
- ・3年目からボランティア・コーディネーターを中心に音楽祭運営の体制を統括している。

② 募集方法

- ・音楽祭のアンケートにボランティアとして参加してもいいかどうかという設問を設けておき、参加してもいいと答えた人に積極的にアプローチ。
- ・新聞での広報、市の広報誌にも掲載。口コミでの勧誘も行っている。

③ 会費

- ・現在は、組織としてきっちりとしておきたいということで、5,000円の年会費を集めている。最初は1万円だったが、若い人にも入ってもらおうという趣旨から最近5,000円という金額になった。
- ・また、当初は実行委員は一般の観客と同じように入場券を購入するのが原則だったが、現在は入会すれば演奏会が見られるようになっている。
- ・会費については、音楽祭の会計とは分けて一般会計として経理処理。

④ 保険

- ・音楽祭期間中のみボランティア保険をかけている。

⑤ 経費

- ・ボランティアは基本的に無償ということで、当初は演奏家の送迎に関する東京や大阪までの交通費も自己負担していたが、現在は、こうした経費については推進会議が実費を支給。
- ・事務局は文化センター内に置かれているため、いわゆるオフィス代や通信費などはセンターが負担しているが、国際電話・ファックス、コピー用紙の費用については、推進会議が負担。
- ・文化センターは、弁当や交通費などを支給することはない。

⑥ 友の会組織

- ・センターとして友の会組織はないが、DM 発送用として2,000名のメーリングリストがある。

(3) 音楽祭の運営予算

- ・音楽祭の総事業費は4,500～5,000万円。
- ・今年度の収入の内訳は次のとおり
 - ・市助成金 : 400万円
 - ・文化庁及び福井県助成金 : 1,080万円
 - ・入場料 : 1,500万円
 - ・周辺市町村負担金 : 500万円
 - ・メセナ(民間助成) : 200万円 (三菱信託芸術文化財団、花王芸術文化財団)
 - ・地元企業の協賛 : 700万円
 - ・雑収入 : 50万円 (グッズ売り上げ等)
- ・文化庁からの助成金は、この音楽祭が、今立町の“紙展”と池田町の“田楽の里づくり”とあわせて「文化のまちづくり事業」に認定されたため。丹南地域まちづくり事業として県の助成金を含め、3つの事業に、2,000万円が5年間継続して助成されることになっている。

■ 武生市文化センター／武生国際音楽祭

- 文化庁の助成金は事業が終わってから、つまり1年遅れで入金されるため、その間借金する必要があるなど、実際の資金繰りでは苦勞することも多い。市の助成金は5月に支給される。
- 周辺市町村の負担金というのは、音楽祭にあわせて周辺市町村へ演奏家を派遣し演奏会を開催する事業を実施しており（6回のスクールコンサートも含む）、その費用として市町村に負担していただいているもの。
- 支出としては、交通・宿泊を含めた出演料が約3,000万円。残りがその他の運営費用。推進会議は、武生市文化センターの使用料（80～90万円程度）を払っている。
- 会計処理は、事業団に準じた形で行われており、市の監査もある。

3. 課題・今後の方向性

(1) 音楽祭の今後の方向性

- 小松長生氏には3年間音楽監督を務めていただいたが、音楽監督制に関しては、メリットとデメリットがあり推進会議でも意見が分かれている。ただし、来年度は継続していただくことが決まっている。
- 5年目に方向転換してから、一般の市民にはわかりやすくなったが、クラシックファンにとっては少しものたりないといったような声もある。ただし、長い目で見て、地元出身の小松氏にもこの音楽祭と関わるることによって成長してもらえればと考えている。
- 現時点では10回までは続けたいと考えている。長い目で見ると、2回目の方向転換は正解だったと思う。方向転換したことで、音楽祭設立当初のメンバーで推進会議を離れ、別の事業を企画して実施しているグループもある。
- 館野氏は引き続き県内のコンサートに出演しているし、推進会議を離れたメンバーの中には「越前冬のコレクション」という別の企画を実施している人もおり、結果的に音楽祭がきっかけとなって幅広い音楽活動につながっていると思う。

(2) 推進会議としての課題、方向性

- 現在の推進会議は組織的には任意団体。企業寄付に対応したりするためには、できれば基金のようなものを持って、例えば財団や社団のような組織化を図りたい。
- 現在は出演者等との契約は推進会議の理事長名で、入国ビザの申請は公的機関の方が望ましいため、事業団の理事長名で行っている。
- 理事長、事務局長クラスの人には後任がいない。文字どおりボランティア精神に頼ってきたため、“気持ちの上での切れ”のようなものがコワイ。
- 理事会の役員についても、組織的な引き継ぎが難しい。また、役員人事は本来なら会員からの推薦によって選出されるべきだが、必ずしもそうはいかない。
- 推進会議のメンバーは、このボランティア活動が個人的なものだけではなく社会的な意義を有したものであり、そうした責任に対する自覚を持って

■ 武生文化センター／武生国際音楽祭

いるが、“そこまでは付き合いきれない”といった場面もある。

- 業務を円滑に行うため、専任事務局員というスタッフを雇って（時給1,000円、音楽祭費用で対応）欧文レターのやりとりなど、アーティスティック・アドミニストレーター（Artistic Administrator）としての館長の業務を補佐してもらったこともある。しかし、そうした常駐スタッフがセンターにいと、本来ボランティアがやるべき仕事まで、その人に頼ってしまうようなことが起こり、結局その制度はうまく機能しなかった。
- 9月からは専任アルバイトとして違う人に来てもらい、ボランティア通信の編集業務などをお願いしている。時給は同じく1,000円だが、音楽祭経費とは別に確保する方向で検討中。

—以上—

😊 ボランティア・インタビュー記録 😊

Aさん（武生国際音楽祭推進会議 理事・事務局長、歯科医）
Bさん（武生国際音楽祭推進会議 会員、自営業）
Cさん（武生国際音楽祭推進会議 会員、会社員）
Dさん（武生国際音楽祭推進会議 会員、武生市文化センター職員）

1. 参加の動機

Aさん | 東京で最初にフィンランド音楽祭を開催した時点で、主催者の館野さんが地方都市での受け皿を探しており、2回目から武生での開催が決まった。最初は官主導で文化センターが実際の受け皿になり、市内の各種団体に声がかかった。丁度青年会議所に属していたため、そこからの代表として参加することになった。

- 音楽祭自体には特別な思い入れはなかったが、これが街おこしの材料になる、ネットワークを拡大できる、子供達の感性の育成につながる、などの派生的な要素にむしろ可能性を感じた。一回目は無事に終わった。一回限りの開催のつもりであったのが、二回目も開催することになり、そのとりまとめ役を依頼された。

- 滞在型の音楽祭とすることで、アーティストとの個人的なネットワークができるし、①最低限教育的効果はある、②うまくいけば経済波及効果も生まれる、③さらには音楽祭を通して街おこしなど政治に関心をもつ人が増える可能性がある、と考えた。

Bさん | 市内で印刷屋をしているので、ボランティアのメンバーとは個人的に接点があった。また、10年ほど前から市民運動等には参加していて、ジャンルに関係なく市民のための催しを行っていた。武生の街づくりについて考える市民グループにも所属していたことがあるし、社会福祉系のボランティアは今でも継続している。

- 武生音楽祭の運営については、観客の反応を聞いているうちに、つくりあげる喜びややりがいを感じるようになった。音楽祭のボランティアが他の市民団体と異なる点は、活動している人達の目的が明確で、各論をやっても必ず根本にフィードバックされているところだと思う。理事会もボランティアメンバーに議論する機会を与えている点が違う。

Cさん | もともと音楽が好きだった。6回目の音楽祭の時に初めて観客として来て、その時のアンケートにボランティアに参加する意志があることを書いた。

Dさん | 武生市文化センターの職員であるために、自動的に音楽祭の実行委員会にボランティアとして参加している。

* 武生国際音楽祭推進会議の会員（登録 59 名）のうち、7名は武生市文化センターの職員。1名は市役所の職員。音楽祭の事務局が文化センター内に設置されているため、自動的に実行委員会に入ることになる。

2. 満足度

Aさん | これまで続けてきたのは、抱えている問題以上に魅力があったからだと思

■ 武生市文化センター／武生国際音楽祭

う。歯科医以外のネットワークができる、具体的には音楽祭実行委員会の名刺を持っていけば、歯科医をしては会うことのない人にも会うことができる。

- 人生で、音楽祭をやらなかったらできなかったこと、経験できなかったことは仕事の何十倍もある。これを経験しない人生はもったいない。自分の利益ではないことにどんどん参加することで、それが結局は自分の得になる。満足度としてはこのように考えている。
- 一方では、理事を務めていることで多方面に義理ができる。理事の最大の責任は赤字の負担。“音楽祭の傘になれ”と言われている。理事はまず年間5000円を支払う。その他にアーティストや関係者の接待もする、チケットも売るという大変な役目を担っている。広告一頁10万円の協賛金集めもするし、自らも協賛金を出す。
- 理事長も、音楽祭を通して知り合った武満さんや秋山さんとの出会いをとても重要だと思っている。また、70歳をすぎて40歳も年のはなれた他のボランティアメンバーの人たちと交流できることも非常に大切に思っている。ボランティアの中は非常に民主的で、理事長ダカラという特別なものはない。ただ一方では、民主的すぎて芸術監督に対してもウンと言わない場合もある。
- 文化センターに音楽祭の事務局があるため、センターのスタッフの仕事の質としてもレベルはあがっていると思う。武生市規模の街で諸外国との大使館とも仕事をするようになるし、外国人もたくさんくるので必要に迫られて英語を話すようになるなど、刺激が多い。
- 行政は、やる気のある市民を使ってお金がなくてもできることをさまざまに行えば良い。
- 現状では行政に対する不満はある。今までの官僚は「これまで何をやってきたか」が重要。行政改革は民間人をいかに使えるかで違ってくる。

Bさん | 文化センターのこの部屋で音楽祭の話や武生の街づくりの話をしている時間は非常に充実している。その時間を自宅でテレビを見て過ごすこととの違いを長期的に考えれば随分の差が出てくると思う。

- ボランティアはある意味では民主的だが、民主的すぎて作業が進まないと思うことはよくある。広告もコンセプトにあわないところからはもらっていない。行政からの補助金も1割で良いと考えている。行政には文化センターの提供など補助金以上にできることがあると思っている。

Cさん | 演奏家の人達と実際に話ができたり、年齢層の違う人達ともネットワークが広がる点は満足しているが、話し合いによる意志決定を重視しているため、作業の進行自体が遅いと感じることはある。

Dさん | 立場の割り切りが難しい。特に音楽祭の事務局が文化センターにあるために、作業の切り分けも難しい。以前に一度文化センターの職場を離れた時には音楽祭のボランティアは継続しなかった。今の立場は純粋な意味でのボランティアではない。

3. 施設側への要望・課題等

Aさん | 行政が負担をして有償ボランティアを採用すると官主導になってしまうので、経費は民間である我々が負担する。但し、音楽祭の基本的な事務局機能として、特に音楽祭機関前は専任のスタッフが必要となる。この人件費だけでも行政が負担してくれると、コストもさることながら、行政とのパイプ役として働くことも期待できる。

- 文化センターをボランティアだけが使える場所にするのではなく、市民誰もがそこを利用するような状況になって欲しい。
- 今後は、武生に来た人やアーティストがどんどん世界中に広がって行けばと思う。音楽祭としては第10回まではこぎつけた。第5回を開催した時に次の5回のことを考えたように、第10回以降20回までは、新しい形での展開をして行けば良いと思う。
- また、NPO（非営利団体）の法人化も非常に重要である。淡々と仕事をこなす行政と一気に盛り上がる街のアンチャンとのエネルギーが繋がれば、必ず相乗効果が期待できる。音楽人口という意味では、7万人の都市で音楽祭開催中1万5千人が来ればマキシマムだと思う。来年、福井県立の音楽堂ができるので、競合するかもしれない。街づくりの運動体としては10万人規模が丁度良いと思う。地方都市が生き残るのは、マイナスの財産をいかに使うかしかない。

Bさん | まとめ役のAさんがいなくてもできるシステムづくりが必要。現在はAさんの献身に随分助けられてしまっている。

—以上—